

令和3年4月9日

## 『井伊家伝来古文書(近代文書)調査報告書』を製作しました。

このたび、彦根城博物館では、5年間かけて調査を進めてきた井伊家伝来古文書(近代文書)18,306点の調査が完了し、その成果を収録した報告書を作成しました。

### 記

#### 1 印刷物の名称

『井伊家伝来古文書(近代文書)調査報告書』

#### 2 印刷物の体裁

##### 【紙版】

A4判

第1巻：368頁、第2巻：448頁、第3巻：448頁



##### 【CD-R版】

紙版の報告書全頁のPDFデータと目録部分のExcelデータを保存

#### 3 報告書の内容 ※別紙内容見本参照

##### ○調査概要・近代の井伊家概要・解題 (24頁)

調査概要、近代の井伊家やその家政組織などについての簡単な解説、解題(目録に収録している古文書について、分類ごとにどのようなものがあるか簡単に解説するもの)。

##### ○史料目録 (1,218頁)

井伊家近代文書18,306点を、主に内容面から分類して、古文書1点ごとに名称、作成者、宛名、年月日、形状などの情報を一覧にした目録。



#### 4 井伊家伝来古文書(近代文書)とその調査について

##### 《井伊家伝来古文書(近代文書)とは》

井伊家伝来古文書(近代文書)(以下、井伊家近代文書と略)は、旧彦根藩主である井伊家に伝わった古文書のうち、近代に作成されたものです。

もともと、井伊家には、主に江戸時代から戦前までの古文書が大量に伝わっていました。そのうち、江戸時代(正確には明治4年以前)のものは昭和53～57年と平成7年に調査が行われ、史料目録が作成されました。また、平成8年には、彦根藩井伊家文書として、国の重要文化財に指定されました。井伊家近代文書は、この後に続く、明治5年以降の、井伊家に伝わった古文書です。現在はすべて彦根城博物館で保管しています。

##### 《井伊家近代文書の調査について》

今回の井伊家近代文書の調査は、平成28年度から令和2年度までの5年間、文化庁の国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金の交付を受けて実施してきました。史料目録を作成することにより、古文書の適切な保管と活用につなげることを目的としたもので、大学教授や滋賀県内学芸員、日本史学を学ぶ大学生・大学院生などの方々にご協力いただき、調査を進めてきました。今後、報告書に掲載した史料目録を手がかりに、研究が進められていくことになります。

##### 《井伊家近代文書から分かること》

井伊家近代文書には、井伊家で働いていた家職の業務日誌や、井伊家所蔵品の管理のための台帳、能に生涯打ち込んだ井伊家15代直忠による能の所作などをメモした手控帳などのほか、彦根城の管理に関する資料、井伊直弼の顕彰活動に関わってやりとりした書類、井伊家も経営に関わった彦根製糸場(明治期、現在の彦根市平田町に存在した製糸工場)関係の書類が含まれており、近代の井伊家や彦根の歴史を知ることができます。

#### 5 報告書の公開方法について

報告書は、主に県内外の図書館に寄贈しました。彦根市立図書館等でご覧いただけます。彦根城博物館学習コーナーにも配架しますが、同コーナーは現在コロナ対策のため利用できません。 ※販売はありません。

##### 問い合わせ先

彦根城博物館 学芸史料課史料係

担当：蔭山、早川

TEL:0749-22-6100 FAX:0749-22-6520

【内容見本】

彦根城博物館古文書調査報告書Ⅸ

井伊家伝来古文書（近代文書）調査報告書（一）

彦根城博物館

# 目次

調査概要	
千松館文書1の伝来経緯と調査経過	6
千松館文書2の伝来経緯と調査経過	7
平成二八年度から令和二年度「井伊家伝来古文書（近代文書）史料調査事業」における文書調査の方法	7
調査日程	8
調査団・事務局名簿	8
近代の井伊家 概要	
近代井伊家の人びと	10
井伊家の家政組織と井伊家をとりにまく人々	12
彦根製糸場について	13
翻刻	14
関係年表	17
解題	
井伊家伝来古文書（近代文書）の分類と内容の総説	18
千松館文書1	
（ア）家族・一族	20
（イ）華族	20
（ウ）賞典禄	21
（エ）地域貢献	21
（オ）彦根城	21
（カ）顕彰・歴史研究	22
千松館文書2	
（ア）長持一・二	27
（イ）長持三	27
（ウ）長持四・五	28
（エ）別途保管分	29
（オ）写真	29
目録	
凡例	32
千松館文書1	
（ア）家族・一族	33
（イ）華族	39
（ウ）賞典禄	43
（エ）地域貢献	56
（オ）彦根城	66
（カ）顕彰・歴史研究	78
（キ）寺社関係	90
千松館文書2	
（キ）寺社関係	23
（ク）日記	23
（ケ）来彦関係	24
（コ）所蔵品管理	24
（サ）土地・家屋	25
（シ）家経営	25
（ス）家政	26
（セ）書簡	26
（ソ）その他	27

(ク)	日記	132
(ケ)	来彦関係	139
(コ)	所蔵品管理	153
(サ)	土地・家屋	169
(シ)	家経営	208
(ス)	家政	262
(セ)	書簡	288
(ソ)	その他	351

## 第二卷

### 目録

#### 千松館文書2

- (ア) 長持一・二
- (イ) 長持三
- (ウ) 長持四・五 (四三九六まで)

## 第三卷

### 目録

#### 千松館文書2 (続き)

- (ウ) 長持四・五 (四三九七から)
- (エ) 別途保管分
- (オ) 写真

### 例言

一、本書は、国庫補助を受けて、平成二八年度から令和二年度にかけて実施した「井伊家伝来古文書(近代文書)史料調査事業」「井伊家伝来古文書(近代文書)地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の調査成果を報告するものである。

一、本書の編集は、蔭山兼治、早川駿治(いずれも彦根城博物館学芸員)が担当した。解題は、宇佐美英機氏、高久嶺之介氏、谷川穰氏(いずれも本調査の主任調査員)より原稿をいただいたほか、渡辺恒一(彦根城博物館学芸員)、蔭山、早川が執筆した。また、目録は、調査概要に記した皆様の協力を得て作成されたものである。

一、本書は、三分冊の冊子版のほかに、CD-ROM版も作成した。

一、史料番号は「素謡会誌(家族・一族一、調六四〇四)」のように、分類項目名とその通し番号、および調査番号で表記した。ただし長持一・二、長持三、長持四・五の場合は、「繭審査順序(長持四・五―三、調九二八三八)」のように分類名の後に「―」(ハイフン)を入れた。

一、参考文献の発行者・出版年については、同じ文献が複数箇所記載ある場合、二回目以降は省略した。

## 解題

### 井伊家伝来古文書（近代文書）の分類と内容の総説

#### 一

井伊家伝来古文書の近世期のものは、序文にも記したように、廃藩置県が実施された年次を区切りとして調査報告書が刊行されている。そして、平成六年（一九九四）に井伊家伝来資料が彦根市に寄贈され、同七年の追加調査と追加寄贈を経て、同八年六月に明治四年（一八七二）年以前の文書（典籍を含む）が重要文化財に指定されたのである。

それゆえ、平成六年時にも調査・整理を捨象した明治五年以降の文書群についても、引き続き調査・整理を実施する必要があったが、諸般の事情で早急に進めることはできなかった。その後、平成二一年に松原屋敷（お浜御殿）にも古文書が所蔵されていることが確認されたため、それらの文書と合わせて改めて近現代期の古文書を調査・整理することが決定された。今回整理を実施した井伊家文書の伝来の経緯や調査の方法等については、別に記されているので、ここでは内容と分類の概要について述べる。

まず文書全体一八、三〇六点を千松館文書1、千松館文書2、と二部に別けて整理した。これは文書の受け入れの経緯に則ったもので、千松館文書1は、平成六年・七年に寄贈された分であり、五、二二八点の文書からなる。千松館文書2は、お浜御殿で長持五棹に納められた状態で発見されたものであり、一三、〇七八点の文書である。千松館文書1・2ともに「千松館文書」という名称を与えているのは、明治期において井伊家の彦根邸は琵琶湖畔の松原村に所在した屋敷（お浜御殿）であるが、同地に置いた事務方施設を千松館（園）と称し家職たちが文書を取り扱うとともに実務を行っていたことを考慮したからである。

#### 二

次に文書の分類方法について触れておく。近現代期の文書分類学は確立していないため、今回の整理に際してはそれぞれの文書群に即して今後利用しやすい分類方法をとることにした。それぞれの文書の性質や機能等に注目して分類することは、古文書学や史料管理学等の学術的な考察が必要であり、いまだ斯学に基づく方法は確立していないことや時間の制約を勘案すると利用分類を選択する方が有意義だと判断した。

千松館文書1では、分類は文書の内容に即して中項目と小項目をたて、その項目に編集するに相応しいものを纏めている。中項目としては、「家族・一族」「華族」「賞典録」「地域貢献」「彦根城」「顕彰・歴史研究」「寺社関係」「日記」「来彦関係」「所蔵品管理」「土地・家屋」「家経営」「家政」「書簡」「その他」の一五項目に分類し、さらに中項目の下に三九項目の小項目をたてて整理している。それぞれの項目に含まれる文書については内容の概要を簡略に解題で述べるため、ここでは分類するに際して、内容や形式から判断すると複数の中・小項目に収録することができるが、それでは煩瑣な作業となるため、あえて特定の中項目に編集したものについてのみ説明しておく。

「家族・一族」に関わる文書の内、井伊家の人々が差出・受取人となっている書簡についてはここに採録せず、「書簡」に収録している。

「顕彰・歴史研究」に関わっては、井伊直政や直弼ら近世期の当主にかかる法要関係はここに収録するが、近代以降の人物の法要関係文書は「家政」に採録することにした。

「所蔵品管理」に関連する文書の内、能楽関係のものは井伊直忠に関連するものと判断し、「家族・一族」に採録した。

「顕彰・歴史研究」には、古文書等の貸借に関するものも含めることとした。

「土地・家屋」に関わっては彦根城関係のものが伝来するが、それらはすべて「彦根城」に一括して採録した。

# 【目録見本】

## 千松館文書 1

【家族・一族】 ≧ [家族・一族]

【家族・一族】 ≧ [家族・一族]

目録通番	調査番号	資料名	和年代	差出(作成)	宛名	員数	紙数・丁数等	形状	紙質	法量	一括関係	備考
1	6404	素謡会誌	昭和7年一月一日	酒井太一郎	—	1	99丁	冊子	和洋	23.7*16.3	—	挟込文書1点有。罨紙使用。
2	30566	[書簡](渡米中の井伊直憲近況等につき)	一年五月六日	井伊家家扶	龍宝寺清人様、他1名	1	2紙	状	和	16.0*45.2	—	—
3	43078	以書付奉願上候(喜多六平太追善能装束・小道具類借用願)	一年五月十二日	喜多又十郎、他2名	—	1	1紙	状	和	16.6*28.8	—	—
4	43184	[能装束拝借書一括](明治36年～大正4年までの千松館所蔵の能衣装の拝借願い)	〈明治36年10月13日～大正4年11月14日〉	田中寿雄(印)	大久保様、他1名	1	50丁	冊子	和洋	27.5*17.5	—	罨紙使用。
5	43452	[能衣裳拝借目録綴]	〈(明治)17年1月6日〉	林泰藏、他	大久保章男、他	1	9冊、19枚	綴	和	28.0*20.0	—	挟込史料有。虫損小。
6	44413	井伊神社御奉納 能狂言装束小道具簿	明治30年9月7日	—	—	1	38丁	冊子	和	23.2*16.3	—	罨紙使用。
7	44414	井伊神社御奉納 能狂言面簿	明治30年9月7日	—	—	1	14丁	冊子	和	22.8*16.5	—	罨紙使用。
8	70184	[欧州巡回日記](8月22日パリを出発し9月15日パリに戻ってくるまでの簡略な旅行記。冒頭「欧州巡回中ダラス氏日記ヲ訳ス」とある)	(明治6年)〈8月22日～(9月15日)〉	—	—	1	1紙	状	洋	23.2*36.2	—	—
9	70185	[欧州巡回中英文日記]	(明治6年)一月一日	—	—	1	1紙	状	洋	21.1*25.8	—	虫損小。
10	70186	[包紙]([「欧州巡周中日誌原訳二」記載])	一年一月一日	—	—	1	1紙	包紙	和	24.5*34.4	—	虫損小。
11	71631	井伊神社奉納能楽組(昭和6年6月1日午前9時開始能演目および演者、井伊琴堂ほか)	〈昭和6年6月1日〉	—	—	1	1紙	状	洋	16.7*31.2	—	—
12	72306	御直書綴(蚊帳到着の件等)	〈昭和2年6月25日～昭和9年1月22日〉	千松館	—	1	78枚	綴	和洋	26.5*21.2	—	挟込史料1枚有
13	72367	仕舞(演目および演者書上)	一年一月一日	—	—	1	2紙	状	和	17.4*38.8	—	—
14	72376	能面示談交渉ニ関スル契約書入(山口増蔵と奥八郎右衛門に対して能面示談交渉を委任する契約書等)	〈大正14年2月18日〉	(伯爵井伊家々令 佐成藤二郎(印))	(弁護士 高野栄次郎殿)	1	3枚	一括	和洋	27.7*20.0	—	一部「弁護士高野栄太郎」罨紙使用。
15	72377	素謡番組(演目ならびに演者書上)	一年一月一日	—	—	1	2紙	状	和	31.8*70.7	—	—
16	72378	[寿・賞与等金額書上]	一年一月一日	—	—	1	3枚	一括	和洋	23.0*15.5	—	罨紙使用。
17	72379	[菓子料等金額書上](局取扱菓子料・寿につき)	一年一月一日	—	—	1	3枚	一括	和洋	23.0*15.6	—	封筒入。
18	72380	[菓子料等金額書上]	一年一月一日	—	—	1	3枚	一括	和洋	22.9*15.4	—	封筒入。
19	72381	[金額書上](賞与分・平拝分の寿・菓子料等)	一年一月一日	—	—	1	2枚	一括	和洋	22.8*15.8	—	封筒入。
20	72382	[金額書上](局取扱、平拝用、寿・菓子料等)	一年一月一日	—	—	1	2枚	一括	和洋	22.8*15.5	—	封筒入。